

<b>1 学校教育目標</b>  豊かな心を持ち、自ら学び、進んで行動する児童の育成	<b>2 本年度の重点目標</b> ①学力の向上を図る ②道徳教育・特別活動の充実と生徒指導の強化 ③健康・安全教育の徹底強化 ④特別支援教育・人権・同和教育・同和推進の推進 ⑤地域に開かれ、信頼される学校づくり ⑥健康で明るい教師が高きに和す学校づくり
--	---

**3 目標・評価**

**①学力の向上を図る**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究の充実 教職員の研修充実	・各学年1回以上提案授業を実施する。 ・教育センター講座及び研究発表会等へ1人1回以上参加する。 ・東部教育事務所等より3回以上研修を受ける。	・授業力向上を目指した授業研究会を8回実施する。 ・研修後の報告の場をもち、新しい情報を共有する。 ・授業振り返りシートを活用し、日々の授業改善を行う。
教育活動	●学力の向上	基礎・基本の確実な定着	・4教科(国算理)単元ごとのテスト到達度を85%以上にする。 ・毎日の家庭学習の達成率を90%以上にする。	・朝の会(健康観察・素読・計算タイム)を継続する。 ・合同計算タイムを2回開催する。 ・朝の学習タイムでタブレットPCを積極的に活用する。 ・「家庭学習がんばろう週間」を毎学期1回実施する。
		指導方法改善 (少人数・TT) 授業中の児童の活動・学習意欲 各種テスト等学習状況の調査	・全国・県学力状況調査・CRTの結果で全国平均を上回る。 ・「算数が分かる」という児童を85%以上にする。	・児童の実態に応じて習熟度別少人数授業など学習形態を工夫した授業を行なう。 ・授業の中で互いの学びを伝え合い生かす場を設ける。 ・デジタル教科書やタブレットPCの活用を行う。
		読書指導の充実	・年間読書冊数一人1～4年100冊以上、5・6年70冊以上達成90%を目指す。 ・子どもたちが、読書に関心を持つような啓発・環境の工夫を行なう。	・読んだ本の冊数が視覚的にわかるような表を作り、掲示する。 ・読書タイム、おすすめの本コーナー、図書館便りを活用し、読書に対する意欲をもたせる。 ・図書館祭りをし、本に対する興味・関心を高める。
	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	ICT機器の活用場面を意識した授業づくり	・ICT機器を活用した参観授業を年間2回以上実施	・電子黒板の活用頻度を高める。 ・スーパーティチャー(ICT)を招いた研修を行う。 ・ICT支援員によるミニ講座を機器の活用スキルを高める職員研修年3回以上行う。

**②道徳教育・特別活動の充実と生徒指導の強化を図る**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別活動	・児童の主体的活動の推進	・委員会での企画・立案による、年1回以上の実行を目指す。 ・学級活動(話し合い活動)を年5回実施する。	・委員会において、自発的な創造工夫のある活動を推進し、活動を紹介する場を設定する。 ・学級において、自発的・自主的な実践活動に取り組む。 ・縦割り班活動(なかよしタイム)の充実を図る。
	●心の教育	道徳教育の充実	・道徳の参観授業を全学級1回以上目指す。 ・「私たちの道徳」を活用した授業実践を行う。 ・2月13日は、命を考える日の集会を行い、一人一人に命の大切さを考えさせる。	・ふれあい道徳の実践を通して、保護者と連携する。 ・命を考える日の前までに、学級で命の大切さについて扱う授業を実施する。

**③健康・安全教育の徹底強化を図る**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	
学校運営	○教職員の資質向上	危機管理体制の確立	・避難訓練(年3回実施)を徹底する。 ・地区での児童の登下校の様子を学期に1回以上把握する。	・避難訓練を徹底することで、平時の危機管理意識を高める。 ・避難訓練のうち1回は、休み時間に行なう。 ・不審者情報や緊急事態発生の際に、学校情報携帯メール配信を確実に実施する。	
教育活動	○安全な生活	安全教育の推進 無事故実績の継続	・登校の様子の振り返りを月1回実施する。 ・自転車乗車時のヘルメット着用率100%を目指す。 ・防犯ブザー携帯率100%を目指す。 ・事故のない安全な登下校を行う。	・毎月1回、一斉下校時に「登下校振り返り」を地区ごとに実施し、状況把握と指導を行う。 ・生活朝会等でヘルメット着用を確認する。 ・防犯ブザーの携帯状況を月に1回確認する。 ・年に1回以上は親子通学路点検を行い、危険箇所マップを再点検する。	
		●健康・体づくり	ヘルスプロモーションを目指した健康づくり	・「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を年に3回以上行う。 ・歯磨きの徹底を図る。 ・むし歯保有率を20%以下にする。	・生活リズムアンケートを年3回実施し児童に意識づけを行う。 ・生活リズムアンケート結果を便りに載せ、保護者の関心を高める。 ・歯磨き指導を行う。歯みがき強化期間を設ける。6/4～ ・歯の検診結果う歯保有の児童に、年に2回 病院受診を勧める。
		体育の時間・体育的行事の充実	・体育的行事では児童の主体的活動を入れる。 ・なかよしタイム等において、児童の主体的な活動を10回以上行う。	・児童主体の運営で運動会・縄跳び大会を計画する。 ・佐賀県が推進している「チャレンジプラン」に学期に1回以上参加し、運動能力を高める。	
		子どもの健康を育む総合食育の推進	・朝食の喫食率100%を目指す。 ・給食の残菜0を目指す。	・生活アンケートを行い、朝食の内容に関心をを持たせる。 ・アンケート結果の考察を保護者に配布する。 ・給食の残菜調べを学期に1回行い、意識化を図る。 ・栄養教諭によるTT授業を行い、意識を高める。	

**④ 特別支援教育・人権・同和教育・同和推進の推進**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●いじめの問題への対応	教育相談の充実 生徒指導の充実 特別支援教育の充実	・生徒指導連絡協議会を月1回行う。 ・学校が楽しいと答える児童を90%以上にする。 ・年度初めにインターネット環境についてアンケートをとり実態把握に努める。 ・「なかよしアンケート」の月1回の実施を目指す。 ・校内就学支援委員会を年1回以上実施する。	・気になる子に配慮するとともに、学期に1回は情報を共有し、みんなで育てる体制をつくる。 ・専門機関との連携を図る。 ・毎週の連絡会等を活用しながら、随時、児童の実態把握と指導についての共通理解を図る。 ・個別支援・指導計画に基づいた一人一人の特性に応じた支援・指導の実施。
活動		人権教育の推進	・人権集会を学期に1回以上行う。 ・縦割り班活動の充実を図る。 ・人権の視点に基づいた学習を各学級必ず行う。	・人権集会(6・8・12月)を活用し、人権意識を高める。 ・清掃や遊びの中で、自然に高学年から学べる環境を大切に作る。

**⑤地域に根ざし、地域に開かれた学校づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・学期1回のフリー参観デーを実施し、保護者80%以上、地域住民30名以上来校を目指す。 ・地域が参加できる行事を年に3回以上行う。 ・まちこみメールを緊急時の連絡方法として活用する。	・フリー参観デーの広報活動を校区内の全世帯に行い、各種会合時に広報する。 ・各種行事についての案内を保護者及び地域に配布し、積極的に広報する。 ・全保護者に登録を依頼し、登録率100%を目指す。
		幼保小中連携の推進	・幼保小連携においては、交流会(低学年との交流・体験入学)を2回以上行う。 ・教科指導、生徒指導の視点をもった小中交流会を年3回以上開催する。	・幼保との連絡協議会、中学校との交流会の場だけでなく、授業参観の機会を活用し、具体的な情報交換を重ねる。 ・みやき町内小中学校の校内研究における講師招聘の共有を図る。
		教育活動の広報	・学校便りは年間20回以上発行する。 ・HPは月に1回以上情報発信のため更新する。	・新聞・テレビ等の取材を積極的に受け入れ、広報に努める。
教育活動		地域の「人・もの・こと」を生かした、生活科や総合的な学習の推進	・生活科や総合的な学習の時間において、地域の方々と連携した取り組みを各学年1回以上は実施する。	・各学年、計画的に地域の方々と連携し、ゲストティチャーを招いた取組を行う。

**⑥健康で明るい教師が高きに和す学校づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務の効率化 役割分担の適正化	・平日(金曜日以外)は19:00までに、定時退勤日(金曜日)は17:00までに全職員が退勤する日を80%以上にする。 ・時間外勤務については、前年度より20%削減を目指す。 ・特定の職員に業務の負担が偏らないよう役割分担の適正化を図る。 ・全校に係る業務や様々な事案への対応については、全職員で取り組む。	・平日や定時退勤日の退勤時刻を、予め全職員に周知し、管理職自らが守るよう心がける。 ・一人一人が業務改善の意識をもち、業務の効率化について考えるよう、個に応じたアドバイスを行う。 ・年度の途中で、特定の職員に業務の負担が集中していないか観察し、課題がある場合は改善する。 ・全校に係る業務や様々な事案への対応については、全職員で取り組むように、管理職等が声を掛ける。